



JR 東労組水戸

JR 東労組 水戸地方本部
発行責任者 村田 祐一
編 集 情宣部担当

2023.11.15

No.13

「水戸統括センターの新設について」提案を受ける！

1. 実施内容

「水戸統括センター」を新設する。

2. 実施箇所と実施時期

新設箇所	融合する箇所	実施時期
水戸統括センター	水戸営業統括センター、水戸運輸区	2024年3月

※水戸営業統括センターの管理エリアは水戸統括センターが踏襲する。

3. その他

- (1) 水戸統括センターの設置に伴う必要な教育および訓練は実施する。
- (2) 水戸統括センターの体制等については、別途示す。
- (3) 今後、土浦エリア、勝田エリアについても統括センターの設置を検討していく。

4. 主な議論内容

組合: 今回の目的を明らかにすること。

会社: 新たな価値の創造を一層推進していく観点から、社員一人ひとりの成長意欲に応え、活躍フィールドを拡大させてこれまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現していくためである。

組合: 水戸営業統括センターから統括センター化にする経緯と2024年3月実施の理由を示すこと。

会社: 2023年10月に水戸営業統括センターが発足し、水戸運輸区と業務の融合や連携を行ってきた。更に融合と連携を推進するため、統括センターとする。実施時期は各施策のスケジュールと調整し、2024年3月と判断した。

組合: 水戸営業統括センターとしての成果や課題を明らかにすること。

会社: 複数駅勤務や複数担務を担える社員ができ、柔軟な働き方が深度化した。水戸運輸区社員に対して水戸営業統括センターに兼務発令を行い、乗務行路の「その他時間」において駅業務等での案内を実施し、一部乗務員は出改札の作業ダイヤに従事している。その他、水戸運輸区管理者が水戸営業統括センターの副長業務を担っている。今後は統括センターとして、駅の管理者を乗務員区の副長業務に従事していく等、相互の領域を拡大させていく考えである。

組合: 会社資料では日単位や時間単位の業務のイメージが示されているが、駅の作業ダイヤ数は限られている。段階的なイメージを示すこと。

会社: 全社員が作業ダイヤに従事するのは難しい。理想を持ちながら順次実施していく考えである。

組合: 新設する統括センターの指揮命令系統を明らかにすること。

会社: 統括センター新設時は駅長が統括センター長となっていた。現在検討中である。

組合: これまで営業統括センターや統括センター新設時に設置した企画グループ・業務グループについて明らかにすること。

会社: 現場で決定することである。決定次第、示す考えである。

組合: 土浦エリア、勝田エリアの統括センター化が検討中である理由を明らかにすること。

会社: 2024年ダイヤ改正において、中編成ワンマン運転の拡大を予定している。現在訓練等を行っているため、業務量が多い状況である。引き続き、現場と支社で調整を行いながら、統括センター化の設置に向けて検討していく考えである。

JR東労組水戸地本は組合員・社員の声を基礎に、今施策に向き合います！